



発行所 社会 宗像 毎月十五日発行 電話 0940-62-1311(代) http://www.munakata-taisha.or.jp/ 定価 一年送料共 1000円

第二十六回

宗像大社かるた大会

小倉百人一首



「小倉百人一首」が故人の功績を称えるとともに「ご指導に恥じない競技を繰り広げます」と力強く選手宣誓、会場からは万雷の拍手が送られた。三十一文字を綴る和歌は「万葉集」勅撰和歌集をはじめ幾千首とあるが、この中より中納言藤原家が選定された百人一首であり、この小倉百人一首を用いて競技されるのが「かるた大会」である。十六日の大会ではA級(四段以上)三十二人、B級(二・三段)三十二人、C級(初段)三十五人が参加し、追悼大会に相応しくベルの高い、フエアナ競技が繰り広げられた。

六月九日(土)・十六日(日)恒例の全国かるた競技宗像大社大会が、当社清朗殿・齋館で開催された。宗像大社では伝統文化の継承と青少年の情操教育の一環として、昭和五十一年からこのかるた大会が実施され、今回で二十六回目となった。今回は主催する九州かるた協会の前会長で、永年この大会にも尽力いただいた故・原田敬一(前名)賞会長(昨年三月に逝去)の追悼大会も兼ねて開催された。開会式では、故原田名譽会長夫人の原田時子氏にご出席いただき、出席者全員で黙禱、故人のご冥福をお祈りし、前年度優勝の山田潤次選手(広島県)から協

「各優勝者は次の通り」(敬称略) A級 山田 潤次 (広島県) B級 村井 喜吾 (大分県) C級 清末 薫 (大分県) D級 野田 亜紀 (熊本県) D二級 下田 亜紗美 (熊本県)

九日の初心者部にも百人以上の参加があり、故名

神具・装束 株式会社 井筒 福岡店 福岡市博多区東公園二丁目(電話0940-6511) 本店 京都市下京区油小路六条北入(電話075-2411)

木組の家 匠の技 総合建設業 株式会社 弘江組 事務所 福岡県宗像市大字元元一〇二五 (電話0940-3311)

玄海町海開き

夏休みも近くなり、玄海に夏の行楽シーズン幕開けを告げる神事、玄海町各海水浴場合同の海開き水神祭が、七月七日、玄海町観光協会主催で宗像大社皇月宮近くのさつき松原海岸(江口)で斎行された。

浜辺に設けられた祭壇には海川・山・野の神饌がお供えされ、午前九時半、当大社神職三名奉仕のもと行政や旅館関係者、町内の各政友会引率の子供達約二百名が参列して斎行された。



神事終了後は玄海男子に地元への海に親しんでもらおうと多様なイベントも催された。海水浴はもちろぬスイカ割り、バナナボート、チャレンジゲーム、また地引き網も体験。網を引く手にも自ずと力が入り、元気な掛け声で奮闘、早速とれた玄海の海の幸をスーパーDバーベキューで堪能。夏休み本番を前に初泳ぎを楽しんだ。

神湊山笠町を練る

去る七月七日十四日玄海町神湊では、段天区(だんてんく)・上中区(かみなか)・小倉百人一首(こくらひゃくにんいっしゅ)が揃い、山笠が立ち、みまわりの山笠が町を練った。

神事が終わると早速「山」が曳かれ、まず神湊の氏神様である津加計志(つかけし)神社に詣り、地域を巡幸。ハッピー姿の若衆に担がれた山笠が各家々の前を通ると、巡幸を今か今かと待ち構えていた人々は、我先にと勢水を浴びせていた。

この山笠行事には、親元を離れ、近隣に居を構える男達も必ず里帰りをし、山を担ぐ。



また来年度玄海町は宗像市と合併することが決定しており、玄海町として行われる最後の山笠であった。町としても地域を代表するこの山笠を重要と考え、七月二十七日に当社隣接の玄海町文化ホール「アクシス玄海」で「夢ワイワイ」と題した夏祭りイベントで披露されることになっている。

暑中御見舞申し上げます 出光 出光興産株式会社 九州支店長 木村 克 福岡市博多区博多駅東2丁目1番23号 サニックス博多ビル5F TEL 092-475-0190

### 式内社顕彰会巡拝会

## 「甲斐・信濃飛騨の國巡拝」



武田神社本殿にて

式内社顕彰会本部並びに九州支部共催の「甲斐・信濃・飛騨の國巡拝会」が去る六月十日(月)～六月十二日(水)の三日三日の日程で実施された。

今回は本部との共催ということで全国より四名の参加者を得ることが出来た。十二日新宿駅に集合し、最初の目的地となる甲斐の国一宮浅間神社に向けバスを走らせた。

山梨県へ入り、多くのブドウ畑の中を通り浅間神社に到着。正式参拝し富司より御祭神・由來等の説明を受け、次の参拝地、甲斐・武田神社へ。南アルプスを社内より眺めながら、車を走らせ武田神社へ到着。正式参拝後、富司より御挨拶を頂きそのまゝ武田神社で昼食をいただく。浅間神社から頂いた御神酒のブドウ酒をそそいで開け、その料理とブドウ酒の味に満足し、昼食後、宝物館を拝観した。



武田神社本殿にて

次目的地「信濃の國諏訪方面」とし、バスを走らせた。諏訪市中洲鎮座の諏訪大社上社本宮。次いで諏訪大社下社秋宮をそれぞれ正式参拝し、その後諏訪大社の祭儀の中で最も勇壮で熱狂的な「御柱祭」のビデオを約四十分間に亘り見学し、有名なお祭について理解を深めた。諏訪大社の参拝で一日目の巡拝は終了し、上諏訪温泉街の「華乃井ホテル」に旅装を替えた。

夕食時の懇親会ではこの日の巡拝社やそれからの予定などに様々な話題が交わされ、参加者一同親睦を深めた。

明けて二日目、曇天模様で時折小雨が降るが、梅雨時期となれば無理の無い天候である。小雨の中、二行は飛騨古川へと向かう。NHK連続テレビ小説「さくら」の舞臺となった、古川の街並を散策し、式内社顕彰会会長の上杉千郷氏が父子に二代目り収集されたという「狛犬博物館」を見学し、世界各国より集められた珍しい品々に一同感嘆の声を漏らした。上杉氏の生家を訪ね、家族総出での手厚い款待、珍しい山の幸の料理の美味しさに一同深く感謝、感激しながら次の目的地金山・目黒地金山・安国寺へと向かった。少しに激しさを増し、宮内雨の中、安本国寺へと到着。本住僧より御本上尊の説明、そして国宝に指定されている大定されている訪経蔵を拝観させて頂いた。そこから十分ほど車を走らせ、延喜式神

武田神社本殿にて

名帳飛騨八坐の一つ荒城神社を正式参拝、氏子の方々のもてなしを受け、二日目の日程を終了した。二日目の宿となる飛騨高山「ひだホテルプラザ」へ到着し、一回旅の疲れを癒した。

最終日となる六月十二日、早朝ホテルを発し、徒歩にて高山朝市、そして情緒溢れる古い街並の中を散策し、途中「目下部民藝館」に立ち寄り、高山町衆の文化に触れた。

高山の街並の中、桜山八幡宮に到着し、巫女により剣舞が奉納され、正式参拝。その後指定重要無形民俗文化財の高山祭りの屋台(山車)が展示されている。

一行は最後の巡拝神社飛騨一宮水無神社を訪れ、正式参拝し今回の巡拝会の全行程を無事終了した。

解散場所となる名古屋空港へ向かうバスの中で、太田支部長より参加者全員のご協力、そして今回の巡拝会に企画からたずさわって頂いた上杉氏へのお礼と来年の再会を約束する挨拶がなされ、参加者全員が拍手にて応じた。

武田神社本殿にて

高山屋台博物館を見学し、現在の二丁三台中四台が展示されていたが、さすがは飛騨の匠の技と心を賞賛せずにはいられないほどであった。

一行は最後の巡拝神社飛騨一宮水無神社を訪れ、正式参拝し今回の巡拝会の全行程を無事終了した。

解散場所となる名古屋空港へ向かうバスの中で、太田支部長より参加者全員のご協力、そして今回の巡拝会に企画からたずさわって頂いた上杉氏へのお礼と来年の再会を約束する挨拶がなされ、参加者全員が拍手にて応じた。



武田神社本殿にて

「天地あめつちの神に祈る朝風の海のごとくに 波立たぬ世を」

浦安舞は昭和天皇の御製を皇紀二六〇〇年(昭和十六年)奉祝の際に祭祀舞として制定された。

六月二十三日(二十五日)までの三日間、昨年まで指導していただいた多(おお)の静子先生に代わって、お弟子さんの磯部恵子先生をお迎えし、新人巫女四名を含めた十五名を合わせた十五名の巫女が参加し温習が行われた。

多先生は九十一歳という御高齢で、講師として来社すると無理をなさるため、今回磯部先生にお願いすることとなった。

先生は、磯部稲荷神社(茨城県西茨城郡白旗町鎮座)代々の社家のお生まれで、現在同神社の欄干を勤められる傍ら、茨城県神社庁の祭祀舞講師をされ、永年多先生の内弟子として指導を受けられた方である。

永年奉仕している巫女達もそれぞれクセを直され、姿勢や手の伸ばし方、扇の使い方など細かいところまで御指導を受け、正しい浦安舞を学ぶことが出来たよ

武田神社本殿にて

### 浦安舞温習記



武田神社本殿にて

うである。日頃稽古はしているも、この温習では真剣にみっちり指導を受けたためか、ほとんどの巫女が筋肉痛になつたとかで、温習の間、先生は「一般の方でも浦安舞を学びに来られる方は大勢いらっしゃいますが、巫女さんではないので、浦安舞は舞えませんが、舞の上の下手ではありません。神様にお任せするつもりで、何より大切で、気持ちの入っていない、くずれた舞だけは舞ってはいけません。」と訓された。

昭和天皇の大御心を多くの参拝者に伝え、平和を祈る優雅な舞を心掛けてい

武田神社本殿にて

### 宗像大社奨学生便り

香椎高等学校 高橋 いくよ

(日)の里中学校卒

昨年に引き続き、奨学金をいただけることを感謝しております。自分の使つてほしいとおっしゃる、とても感謝しました。これから自分、どのような道を選び、どのような職業につくのか、まだよく分かりませんが、荒井会長様のような心を持つようになりたいです。毎日忙しく過ぎていき、自分のことなどあまり深く考える暇がない時に、宗像大社の集まりがあり、皆さんの話を聞いて、自分の振り返る時間を持つことが出来ました。

今後、宗像大社の神様とお金、という、奨学金の意義を噛みしめ、一歩一歩、自分らしく日々大切に過ごして行きたいと思っております。将来へ向けていろいろなことを経験し、「自分は何かできるのか」、「自分は何をしたいのか」目を背けず考えていきたいと思っております。

武田神社本殿にて

### 暑中御見舞申し上げます

株式会社 九電工 福岡営業所

所長 山川伸洋

宗像郡福岡町西福岡二二七十七  
TEL 〇九四一四二二二二〇

宗像農業協同組合

代表理事 組合長 中野 一

宗像市大字東郷六一一  
TEL 〇九四一三六一四二一〇

福岡銀行 宗像支店

支店長 木下博文

宗像市大字東郷九一八一  
TEL 〇九四一三六一二〇一七

福岡銀行 宗像支店

支店長 木下博文

宗像市大字東郷九一八一  
TEL 〇九四一三六一二〇一七

# 決断力 その時昭和の経営者たちは

## 出光興産株式会社 出光 佐三 店主

### 「理念の確立まで」⑤ 瀧口凡夫著

地は肥えたり、種を播こう

一九四五年(昭和二十年)

の敗戦まで、出光の風のよ

うな発展が続く。佐三の根

本理念である「国家社会の

ため一人の真に働く力」

を發揮し始めたのである。

この間、佐三は三年に

は門司商工会議所会頭、三

七年には貴族院議員、多額

納税議員

に選ばれて

いる。

見たとこ

ろ極めて順

調な歩みだ

が、しかし

この裏には

血の出るよ

うな努力、

生死をかけ

た苦勞、悩

み、が隠さ

重五十年」と要約している

が、たゞいかに信念を通

そうとするから抵抗は強い

のである。

出光美術館に、博多の禪

僧仙崖の作品が多いことは

よく知られている。

仙崖の画「指月花袋」は、

遠く高い目標を掲げて進め、

との教えである。佐三は四

三年、北京支店でこれを引

穂を目的と

して大に

播かざるべ

からざる(一)

「部略」と定

員に呼びか

けた。

四一年

「昭和十六

年)の創業

僧三十年に



博多の禪僧仙崖の「指月花袋」の複製。仙崖は、遠く高い目標を掲げて進め、との教えである。佐三は四三年、北京支店でこれを引穂を目的として大に播かざるべからざる(一)「部略」と定員に呼びかけた。

## 第四九三回 宗像大社歌会詠草

大野 展男 選

毎月 25 日 切

玄海 安水 久子

会いたきは捨てざりしもの

を見る摩訶不思議かな夢と

言ふもの

(評) 不愉快なる夢を覚

めんと努力して漸くさめし

とき疲れを」と、佐太郎

は夢と気づきながら、そ

から逃れようにも逃れない

もどかしさを詠ってをり、

安水さんは、見たくないもの

が見られず、見たくもない

が現れる夢を摩訶不思議と

嘆き、人間の願望の空しさ

をうまく詠い得ている。

福岡 中村 勇

拾いたる木の仏像を六十年

拝みて妻は幸福と言ふ

(評) 川より示現した観音

像を祀つたのが始まりと言

はれる浅草寺は有名である

が、中村さんの奥さんの拾

たのはどんなに偉大なるか

場をわきまえている作者で

あり、自愛のうたである。

「次にしよう」とには、作

者ひとりでは無い。恐ろし

く奥さんの留守さんも一緒

であることを暗示して

巧みである。

曲 天野 玲子

賢しらな批評家という人の

論調には誰いづつも腹立ち

てくる

光岡 井上 嘉治

千羽鶴ベッドに残し母は逝

き空虚に見ゆる秋の落日

花季に訪ひしことなき高浦

園今日満開に会いし幸せ

大島 越智 淳子

やろやくに波しづまりし海

上にミスナキドリはかなき

追いゆく

池田 小田 イセ

どくだみの花は十字に白く

城南ケ丘 中間日出子

山腹に数年前に植えられし

エビネは今立札のみなり

自由ヶ丘 細川 絹子

庭に咲く赤きつじは満開

し青葉の多き庭をいろど

光岡 河村 久光

螢光灯白く光り夜の明け

ぬ春田おこしに雲雀はかな

しむ

日守 佐藤 純一

子宝を社に給ひし母の友境

内めぐり作法説きお

神湊 中山 千鶴

湯に浸む足腰温めて梅雨寒

の夜安らぎて寝む

日守 佐藤 純一

み社へ上る山道鶯の声をま

ねして口笛を吹く

福岡 池浦千鶴子

新開もテレビも賑はすサッ

カーに世界地図もその国

探す

福岡 池浦千鶴子

武丸 中村さつき

操場と海にも写る平戸城旗

松亭よりの夜景素晴らしい

自由ヶ丘 細川 絹子

繁りたる松の木かげにさか

りいしつじの花はやつと

色あす

光岡 小森テル子

熱き日にワールドカップの

試合あり老いも若きも勝利

めざして

光岡 河村 久光

煎茶飲み眼ぱっちり庭を見

る桜の花の散るをかなしみ

光岡 井上 嘉治

田植え待つべき代田はひろ

びろと鏡の如く夕日きらめ

く

(ご案内)

この社報「宗像」に掲載する短歌俳句を毎月

二十五日締め切りで募集しています。御希望

の方は、宗像大社歌会まで御送付願います。また、短歌の勉強会である互選会も、毎月第三土曜日に当大社斎館に於て開催しておりますのでどうぞご参加下さい。

# 暑中御見舞申し上げます

## 西 日 本 銀 行

自由ヶ丘支店

支店長 田中二彦

宗像市自由ヶ丘二丁目七七一  
TEL 〇九四〇一三三一五一一

赤間支店

支店長 田中二彦

宗像市大字土六三九七一  
TEL 〇九四〇一三三一五五六五

日里支店

支店長 原田崇始

宗像市日里二丁目六二〇四一  
TEL 〇九四〇一三六一二八八一

福岡支店

支店長 津留秀人

福岡町中央三丁目七七一  
TEL 〇九四〇一四二一一三三三

福岡シティ銀行

日里支店

支店長 有座宏

宗像市日里一丁目二九一八  
TEL 〇九四〇一三六一六七六七

福岡中央銀行

自由ヶ丘支店

支店長 篠塚幹夫

宗像市自由ヶ丘五一九七五一一  
TEL 〇九四〇一三三一三三三三

